



# UIFA ニュース

発行 宇治市国際親善協会

事務局 〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書課内

電話 0774-22-3141(内線2057) FAX 20-8776

E-mail BCH04550@nifty.com ホームページ <http://homepage3.nifty.com/uifa/>

第 47 号

平成18年(2006年)4月

## 宇治市の18年度予算が成立

又ワラエリヤ市と咸陽市とは盟約締結 20 周年を迎えます！

宇治市の平成18年度予算が、3月30日に宇治市議会で可決され、成立しました。宇治市の友好都市との交流事業の主な内容は、次のとおりです。

### カムループス市関係

#### ☆ 公式訪問団の派遣

宇治市からの公式訪問団を派遣。公式訪問団は、行政や議会関係者による行政訪問団と協会が公募する市民訪問団で構成され、6月29日から7月7日の日程で募集します。(募集記事を参照)

#### ☆ 中学生訪問団の派遣

宇治市の中学生訪問団を派遣。

定員は市立中学校(9校)通学者から各校1人、国私立中学校通学者から1人の計10人。派遣内容は、カムループス市で3泊のホームステイと友好交流、その後はカナディアンロッキーを視察。実施時期は8月中～下旬。5月頃の宇治市政だよりに掲載記事が掲載される予定です。

#### ☆ トンプソン・リバーズ大学市民留学生の派遣

同市にあるトンプソン・リバーズ(旧カリブ)大学が設けた奨学制度を利用して、宇治市民留学生を同大学に派遣。宇治市の推薦を受けて同大学に留学すると、1学期間(4カ月)の授業料が免除されます。推薦留学生の募集は、秋の予定。

#### ☆ カムループス市の学生訪問団の来訪 <新規事業>

カムループス市の学生が訪問。これまでは、宇治市の中学生の訪問だけでしたが、カムループス市の学生に来ていただき、相互交流を図ります。滞在はホームステイを予定しておりますので皆様のご協力をお願いします。

### 目次

|               |     |
|---------------|-----|
| 宇治市の18年度予算成立  | 1   |
| 留学体験記 「広い心で」  | 2～3 |
| カムループス市訪問団募集  | 3   |
| カナダ・アバディーン訪問記 | 4   |
| カナダからの手紙・雑感雑観 | 4   |

### 咸陽市関係

☆ 公式訪問団の来訪…17年度に引き続き、同市からの公式訪問団が宇治市に来られる予定。来訪時期は同市と調整中です。来訪に合わせて、友好都市盟約締結20周年の記念事業を予定しています。

### 又ワラエリヤ市関係

☆ 20周年記念事業の実施…同市との友好都市盟約締結20周年を記念して、これまでの交流を振り返る記念事業を予定しています。

### 写真展を開催！市役所の市民ギャラリーで

又ワラエリヤ市との友好都市盟約締結  
20周年記念写真展

平成18年4月11日(火)～14日(金)

カムループス市の写真家

イレイン セージマンさんの写真展

平成18年4月17日(月)～27日(木)

(4月18日(火) 午後2時から生涯学習センターで講演会を行います。)

## 留学体験記

## 広い心で

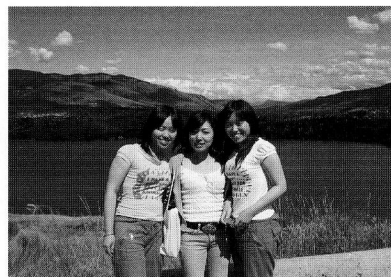
濱野 恵里さん記

私はカムループスでトンプソン・リバーズ・大学に通い、ホームステイをしながら9ヶ月間を過ごした。夏には川が流れ清々しい気候と冬には辺り一面の雪景色が見られる美しい街はのどかで、そしてその地で暮らす人々は現状の暮らしに満足してゆったりと過ごしているように思われる。そこで送った、貴重で充実した体験を短く語るのには難しい。そこで出会った人々との思い出が目まぐるしくあふれ出てくる。9ヶ月という短い期間で私をあれだけ理解してくれる人に会えたこと、それは私の一生の宝物である。知識は財産だというのが、私が得たものは知識と、それに加え素晴らしい人々との出会い、国の枠を越えた関係を築けたこともまたかけがえのないものである。お互いの文化を理解し、受け入れ、そして友情を深めてゆく、そうして得た友人は例え遠く離れても決して忘れることはないだろう。それらの人々がいつか世界のどこかで国際交流に携わり、友好な関係を築いてほしいと願っている。

私がホームステイや、友人と過ごした中で感じたことからカムループスの人々について少し紹介したい。カムループスの人々は、日曜大工、インテリアにこだわるなど、とにかく素敵な家に住んでいて、時にホームパーティーを開くなど各々の生活を充実させている。家を大切にするということは、家庭にいる時間を楽しんでいるということだ。実際週に一度程度はホームパーティーのお誘いを受ける。友人や友人のホストファミリー、または国際結婚の夫婦の方などにも招いていただいた。カナダでは日本でいう

盆・正月のように大きなフェスティバルとして Thanks Giving Day や Halloween、クリスマスがある。Thanks Giving Day は収穫を神に感謝する日で、家族で集まり七面鳥を食べる。特に面白かったのは Halloween である。なぜかという、私が想像していたものは子供たちが仮装してお菓子をもらいに家々を周るというものだったが、それだけではなかった。もちろん子供たちは天使やバットマン、ピカチュウなどにも仮装していて、“Trick or treat” と言ってお菓子をもらって行く。とてもとてもかわいらしく写真をたくさん撮った。しかし来るのは子供だけではなく、私がドアの前でお菓子を用意して待っていると、黒く大きな影が・・高校生だった。ホストファミリーは年をとり過ぎだなどと言っていたが、恥ずかしがらずに仮装してお菓子をもらいに来るカナダの高校生はあどけなく、かわいかった。クリスマスは前後1ヶ月間ほど街全体がライトアップされ大変美しかった。日本でも繁華街などではイルミネーションが見受けられるが、日本と違うところは、店などではなく、各家々がライトアップされるのだ。というのもそれぞれの家の人が自分の家を飾るのだから、大変な費用も手間もかかるだろう。にもかかわらず多くの家がしているということから、クリスマスに対する思い入れの強さが伺える。Thanks Giving Day と同様、家族で七面鳥を食べ、その後プレゼント交換をする。前もってもらったプレゼントもその時に開封する。それまではツリーの下に置いて、開けずに待たなければならない。その日旅行に行っていた友人に一週間前にプレゼントをあげたが、友人はクリスマスイブの夜電話をかけてきて「今開けたよ」とお礼を言っていた。つまり旅行先にわざわざ開けずに持っていたのだ。大人なのに子供の頃のようにきちんと風習を守っていてとても

かわいかったと思った。



中国からのクラスメイトと湖へ

次に語りたいことは、大学での学生達との出会いである。大学では英語力を養成する期間である ESL の授業と、Early Childhood Education という学部の授業を受講していた。初めはネイティブの人々の英語すら聞き取りにくかった私が中国人やブラジル人その他世界中から来た人々の英語を聞き取るのには大変苦労した。前半4ヶ月はリスニングの能力が乏しかったため、聞くことに一生懸命だったが、帰国する前、仲良しの韓国人の友人とバンクーバーへ8日間旅行した時、ふと気づいたことに毎晩夜遅くまで彼女と話し込んでいる、おしゃべりな自分がいて大変驚いた。留学しているなら当然なのかもしれないが、私は「しゃべる」ということに対して最も自信がなかったためとてもほっとした。当初4ヶ月で帰国する予定だったが、延長したのは Certificate of Academic preparation という資格を取得するためと、やはり伸びるのはこれからだと思ったからだ。授業で為になったのは、毎日のように出される作文や要約といった課題を数えられないほど書いたことだと思う。もともと書くことが好きな私は必死に取り組んだ。その甲斐あってライティングの授業では満足のいくエッセイを書き終え、先生は“best student” だと言ってくれた。また TOEIC を受けた結果リスニングの点数がとてもよかったため、延長して本当によかったと思っている。しかしライティ

ングやリスニングは授業や毎日テレビを見るなどして養えたが、スピーキングだけは誰かと話さなければ決して伸びないとわかった。その点において私は会話をしてくれた友人達に大変感謝している。ESL に来ている学生は世界中いろんな国々の人がいるが、付き合っていく上で考えさせられたことがいくつかある。中でも中国人の学生達との関係である。その人は日本人が嫌いだったが、私に出会って変わったのだと言う。なぜ嫌いだったかという、日本人の中には集団で中国人をよく思わない人達がいて、そのような人々を見てきた彼は日本人に見下されてるように感じていたらしく私の意見を聞いてきた。私は正直に聞いてくれる友人の気持ちが嬉しかった。私は誠意を込めてそうではないことを説明し、理解してくれた。文化の違う人々と付き合う上で大切なことは差別や偏見をもたず、違いを楽しむことだと思う。それは決して難しいことではなく、その人を国で判断せず、一人の人間として、個性だと捉え、尊敬や親しみをもって接することである。例えば、自分が日本人だからどうこうと言われるとどのように思うだろうか。嫌な気分がするであろう、一人の人間として理解してほしいと思うであろう。それを理解し、広い心で受け止めれば、どこに行っても人から好かれ、理解しあえる友人ができること確信している。

次にホームステイについての話をした

い。私は9ヶ月間ホームステイをしていたが、初めの4ヶ月はイタリア人の家にステイしていた。とてもおおらかで優しく陽気な彼らと楽しい時間を過ごさせていただいたが、毎晩のように大勢の人を招いてパーティーをするため、勉強ができなかったので引越すことにした。新しいファミリーはカナダ人のお父さんと韓国人のお母さんの家だった。陽気なお父さんに毎日のようにからかわれながら、しっかりといて優しいお母さんとたくさん話をした。彼女は何でも話してくれるので、私はその家の家計のことまで全て知っていたほどである。彼らのおかげで英語に慣れ親しんできていたが、やはりカナダ人と電話で話すことが怖かった。しかしそれを助けてくれたのはカナダ人の友人だった。初めは緊張したがたくさん電話をしてくれたので、徐々に慣れてきて話せるようになった。



優しく可愛いカナダのママと

学校の友人やホストファミリーなど、私は色々な国の人に出会い、文化を体験してきた。そのような中で、カナダと言

う国は本当に異文化で成り立った社会なのだこの体験を通して実感した。学校で出会った学生達のうち何人かはいずれカナダに永住する予定だと話してくれた。たくさんの人がカナダに移民して今の社会を築いているが、私は学生達を見て、また自分の体験を通して、その人達がどのように文化に馴染んでいったか少しわかった気がする。そこにはカナダの広大な自然を背景に異文化を受け入れ、お互いの文化を尊重し、それを当然のことに生きている人々がいた。カナダという一つの国の中で多文化が平和に共存している、そのような社会が世界の目指すものではないかと思われてならない。異文化を受け入れる広い心を世界中の人々に持っていてほしい。この貴重な9ヶ月間を通して、**certificate** を取得したこと、生きた英語を学んだこと、苦手だった電話での会話すら乗り越えられたこと、これらのことをやり遂げることができた私はもちろんできることならこの先ずっと英語を学びたい気持ちはあるが、しかしこの経験に悔いを残すことはない。私もここで出会い、支えていただいた全ての人に感謝し、国際交流の役に立てるよう、生涯取り組んでいきたいと思う。

最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださった市役所のみなさん、ホストファミリー、友人、お世話になったすべての人々に感謝の気持ちを表したい。

## カムループス市への訪問団員を募集

- ☆日 程 平成18年6月29日(木)～7月7日(金)
- ☆訪 問 先 カムループス市・カナディアンロッキー等視察
- ☆応募対象者 宇治市に在住あるいは在勤・在学している方
- ☆募 集 人 数 20名
- ☆参 加 費 用 30万円程度(受付締切後に確定。パスポート取得費や個人的経費は除きます。)
- ☆応募申込み 4月3日(月)～4月14日(金)までに事務局(宇治市秘書課内)へ申し込んで下さい。  
(電話申込み可・市役所開庁時間内 20-8701)

※応募者が多数の場合、過去に公式訪問団員として参加されていない方を優先して、抽選を行う場合があります。

# Report

## カナダ・アバディーン ライオンズクラブへ 表敬訪問を終えて

宇治ライオンズクラブ会長 村田貞美さん 記

6月16日(木)、12:00 JR 宇治駅集合 16名の宇治ライオンズクラブメンバーが、カナダ カムループス市へ、服部次期会長、浦山ご夫妻、家族の見送りを受け一週間の旅立ちである。

6月16日(木) 午後1時カムループス空港に到着、ライオンズメンバーの出迎えを受けいよいよ親善表敬訪問のスタートである。午後5時30分、我々宇治ライオンズクラブメンバーを含む80名が出席のもとカーリングコンベンションホールでの晩餐会、アバディーンライオンズクラブ女性会長『デミーズ・ヘンズ』より歓迎のスピーチを受ける。

メンバーの高齢化が進んでいるのと女性メンバーが多い事には驚きである。我々、訪問団を大いに歓迎してくれて、例会には13名のハン

ドベル演奏団から見事な音色を聞かせてくれた。答礼としてLL 森典子が振り袖姿で祇園小唄を鮮やかに踊ってくれた。浴衣姿のLLも加わり花笠音頭となりカムループスメンバーも加わって踊りの輪がいつまでも続くことになった。

L 北村が『マツケン姿』での登場、これにはカムループスメンバーも大笑いで例会は最高の交流会場となった。

翌日、カムループス市役所を訪問し、記念品として『兜』を寄贈し、カムループス市長より歓迎のスピーチを受ける。又、宇治市長からの親書を手渡し、カムループス市長からの親書を預かる。市長と交流後、宇治公園にて姉妹提携時に記念植樹をしたカエデの前で記念撮影。

その夜は、日本人会館にて我々のクラブが主催する晩餐会を開催、日系人の皆様から手作りの料理があり、前日のライオンメンバーと日系人の皆様が多数参加しての答礼会となる。記念品に『兜』を寄贈し、更に、L 浦山やレオクラブメンバーが製作してくれた『竹とんぼ』を飛ばし、日本の古い伝統を味わって貰える事が出来た。

今後、両クラブ間の交流のあり方について『文書』にて返事する。との事であった。今回の訪問により、宇治市とカムループス市との友好交流に宇治ライオンズクラブも一端の役目が果たせたと思う。



### 親愛なる久保田 勇 様

私はカナダに帰り、日常生活に戻っています。あなたのおもてなしに対して感謝を申し上げます。

私は日本での出来事を大切に、多くの友人に話しました。友人は私の経験について非常に興味を持ち、日本のことについてたくさんの質問をしました。今回は、日本への初めての旅行でしたが、暖かい歓迎を受けて大変満足しました。私が盲目かどうかは、誰も気にしませんでした。誰もが私を人として受入れてくれて、どこへ行っても、また、誰と会っても最上の敬意を払っていただきました。そして、助けを必要としたときだけ補助をしてくれました。あなたのような栄誉と感謝の気持ちにあふれた人に会うことができ、大変名誉に思います。私はとても多くの経験をしました。最も印象的だったものは、歓迎会での宇治田楽の演奏で、違う文化の楽器を手にして楽しめました。また、市役所で演奏した時に、私に会いに来た女性が喜びに涙され、感動しました。対鳳庵でのティーセレモニーにも大変感心しました。私はお茶が大好きです。

直ぐに手紙を書かなかったことに対して心からお詫びを申し上げます。あなたとあなたの同僚に神の祝福がありますように。

2005年度訪問団 デイビッド・サーシックス

### 雑感雑観

私がスリランカ友の会に入ったのは、木幡公民館でのスリランカダンスを習いたい為でした。難しい振りがなかなか覚えられず、他の人の動きを見よう見まねで、なんとか形だけ真似できるようになりましたが、リズムに乗って軽やかに踊るのはなかなか難しく、つい真剣な表情になってしまいます。「ニコニコ楽しく笑って」と注意され、笑いながら踊っていると本当に楽しい気分になってきます。

このサークルでは、日頃の練習の成果を生かして国際親善の交流

会やチャリティコンサートで踊ったり、病院や養護老人ホームを慰問して踊りを披露した後、民族衣裳の着付けをしてお年寄りに喜んでもらっています。

スリランカは地震による津波災害で、大きな打撃を受けました。私たちのグループでもスリランカへの旅行の話が持ち上がっていた矢先の出来事で、旅行の話もそれきりになってしまったのですが、最近現地の方にお話を聞いてみると、もう復興していて旅行も可能だということがわかりました。観光客も増え、活気が戻ることを祈ります。

(スリランカ友の会 山川)